

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

島根半島 市民に不安渦巻く 能登半島地震の教訓 備えは 原発なくし安全安心の松江へ

日本共産党島根県委員会
は5月30日「能登半島・志賀原
発、島根半島視察、報告会」
を開催しました。



60名の市民が参加視察調査報告会の様子

尾村利成県議、村穂江利子
県副委員長、亀谷ゆう子衆院
島根2区候補、遠藤秀和県議
に代表団に
石川県能登半島・志賀原発
(5月13〜15日)を視察、同
月島根半島調査として出雲市
地合町、松江市島根町、美保
関町を地元市議団と共に
行いました。

視察団は、能登半島地震
では①志賀原発30キロ圏内
14地区で154人が孤立し、
原発事故が起きていれば被
ばくの危険性があつた②21
の放射線防護施設(屋内退
避施設)のうち6施設で気
密性が維持できない事態と
なつた③石川県の被害想定
は26年間見直されず、実際
の被害と被害想定に大きな
乖離が生じた④原発推進の
志賀町長が再稼働への慎重
姿勢に態度を転換したこと



島根半島調査にて左から尾村県議、たちばな市議、
村穂副委員長、亀谷予定候補、舟木市議、石橋寛元町議

などを報告。
「たちばなふみ市議が松江市
の地域防災計画を示し、被害
想定の際となる鳥取沖合断層
と宍道断層が6キロしか離れ
ていないと説明。島根町と美
保関町の「原子力災害発生時
の避難計画」を示しながら、
地元住民から寄せられた「避



聞き取り調査を行う 左から尾村県議、
たちばな市議、村穂副委員長、永田泰三元町議

難ルートが断層の上を通過
おり大地震で寸断されるので
はないか」など孤立の不安を
抱える声を紹介しました。
尾村氏は能登半島視察、島
根半島調査を通じ「島根原発
2号機の再稼働(12月予定)
などあり得ないことを痛感し
た。実効ある避難計画は未策

定であり、県民の中には地震・
津波災害、原発事故への不安
が渦巻いている。再稼働ストツ
プの世論を大きくし、大平よ
しのぶ衆院議員の議席奪還
で原発ゼロの政治を実現しよ
う」と呼びかけました。
視察団は5月29日に出雲市
でも報告会を開き、大田陽介
県議が島根半島の防災強化の
ために県が調査した臨時ヘリ
ポート候補地の視察について
報告しました。
島根県は災害時に発着でき
るヘリポートの適地調査を今
年3月に実施。大型や中型ヘ
リが発着できる候補地として、
災害時臨時ヘリポートに指定
している31カ所を含め約70カ
所を適地としています。

沖縄を知れば日本がわかる 「命どう宝」

沖縄返還から52年の今年、
台湾有事を声高に叫び軍備拡
張に邁進する日本政府を見て
いると、太平洋戦争に突き進
んで行った戦前の日本を見て
いるようで怖くなる。再び最
前線基地に、沖縄がなろうと
している。日本中にある多くの
米軍基地を沖縄に押し付け、

今なお島全体の軍事基地化が
進んでいる。

劇団文化座公演「命どう宝」
を松江市民劇場5月例会で鑑
賞した。この作品を企画した
文化座・代表の佐々木愛さん
は「この作品を初演した時、
私はいつまでもたつても終わ
りを見せない世界の戦争に、沖
縄の人々の苦悩に、何とか私
たち演劇人も寄り添えないも
のかと考え、この作品を企画
しました。残念なことに、世
界のあちこちでの紛争は初演
時より激しさを増し、沖縄の
核配備も目を追うごとに強固
なものになっています。けれ
ど、世界のあちこちで平和の
ために、人命を救うために懸

命に働いている方々も沢山い
らつしやり、沖縄でも地道な
市民運動が勝利を収めたりし
ているところもあるのです。
私たち演劇人に大きな力があ
りませんが、瀬長亀次郎、屋
良朝苗、阿波根昌鴻と伊江島
の農民を真摯に描くことによつ
て、私たちの心をお届けした
いと思っております」と話さ
れた。

“戦争はいけないよ。「命
どう宝」だよ。剣を持つ者は
剣にて亡ぶと叫び続けること
が沖縄の闘いのメッセージ”
舞台から命のメッセージを
受けた私は、演劇の力を改め
て感じたのでした。

皆さんも、人生の一部に演
劇鑑賞を加えてみませんか。
松江市民劇場幹事会副会長

福田 昇氏 寄稿

松江生健会・年金者組合 東部支部が合同レク開催

松江生活と健康を守る会
と年金者組合東部支部は5月
26日に春の合同レクリエーショ
ンを開催しました。

東出雲町の「おちらと村」
に15人が集いました。おちら
と村の多和田さんから東出雲
町の名所、人物、おちらと村
のあゆみなどが魅力や誇りを
交えて話されました。話にひ
かれて、石神様や神社などに
早速出かけたグループや施設
の方の協力で、そば打ちや木
工のコースターづくりに取り
組み午前中を楽しく過ごしま
した。

昼の昼食はおちらと村自慢
のランチ。地元の食材を中心
にした山菜や魚の料理が出て
来ました。食材だけでなく味
も量も高齢期に入ってきたメ

ンバーにはありがたいもので
した。
食後に全員で記念写真を撮
りました。一息ついたところ
で、『ミニタングラム』が配
られました。「頭を使うのは
嫌だ」の声も聞かれましたが、
パズルに挑戦し出すと「嫌だ」
と言っていたのが嘘のように
皆が楽しんでいました。

最後に全員で『峠の展望台』
へ。少し遠くがかすんでいま
したが、東出雲町、中海、大
根島、島根半島が見渡せ最初
に聞いた東出雲の魅力の話の
総集編とも言える景色でした。
仲間はまだ入っていない人に
「よろしければ加入しません
か」の声をかけながら帰途に
つきました。(年金者組合
書記長 近藤 修氏寄稿)

